



1 導入編

Expressワークステーションや添付のソフトウェアの特長や導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順について順を追って説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

知っておきたいこと(→2ページ)	Expressワークステーションの特長や添付(または別売品)のソフトウェア、および各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。
導入のポイント(→5ページ)	Expressワークステーションをご利用されるシステムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。
お客様登録(→11ページ)	お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひお客様登録をしてください。
セットアップ(→12ページ)	Expressワークステーションをお使いになれるまでに必要な手順について順を追って説明しています。
再セットアップ(→29ページ)	ハードディスクからオペレーティングシステムを起動できなくなった場合にハードディスクの内容を出荷時の状態に戻してから再セットアップする方法について説明しています。

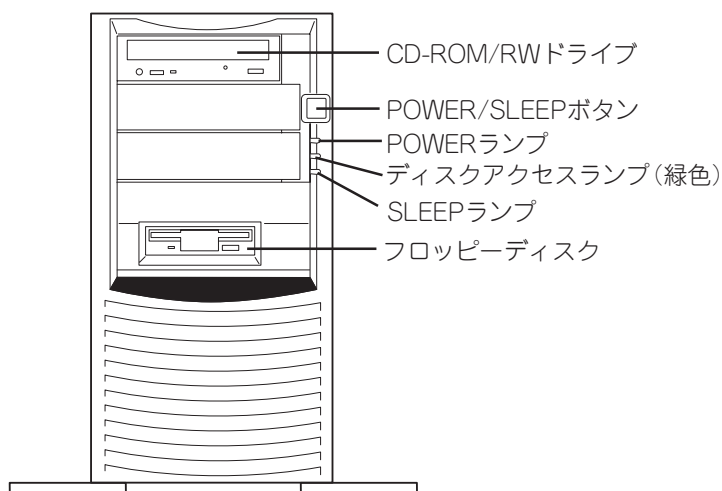
知っておきたいこと

本装置について知っておいていただきたいことがらを記載しています。導入の前にご覧ください。

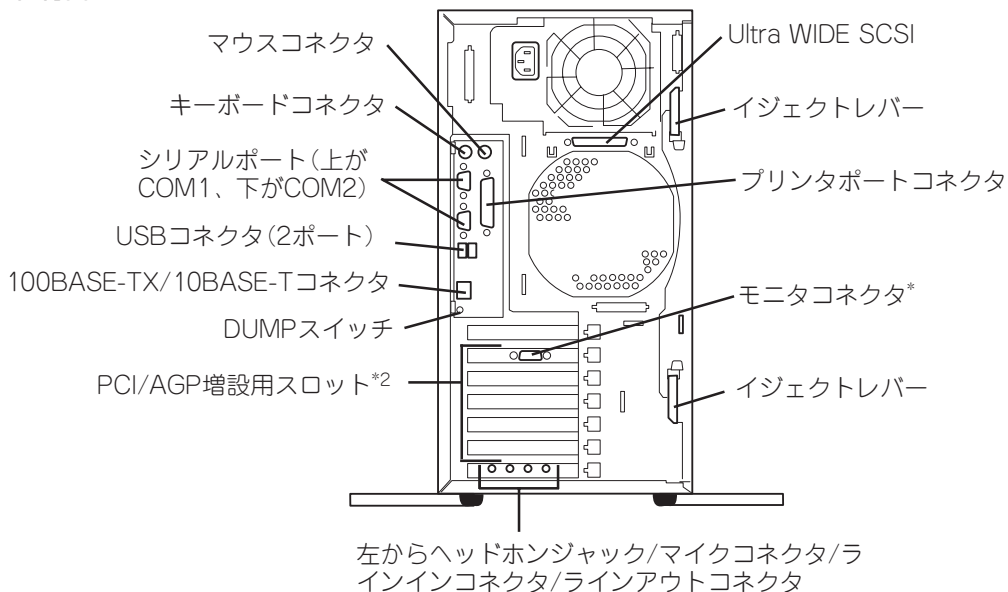
装置外観

導入の際に知っておいていただきたい各部の名称と場所を次に示します。増設や運用時に知っておいていただきたい各部の名称や機能については「ハードウェア編」をご覧ください。

<装置前面>



<装置背面>



* AGPボードはオプションです。

Expressワークステーションの特長

お買い求めになられたExpressワークステーションの特長を次に示します。

高性能

- Intel® Xeon™ Processor搭載
- 高速100BASE-TX/10BASE-Tインタフェース(100Mbps/10Mbps対応)
- 高速ディスクアクセス(Ultra160 SCSI対応)

高信頼性

- バスパリティエラー検出
- 温度検知
- パスワード機能
- 内蔵ファン回転監視機能
- 電圧監視機能
- メモリ監視機能(1ビットエラー訂正/2ビットエラー検出)
- メモリ縮退機能
- CPU縮退機能
- ウォッチドッグタイマ機能

保守機能

- OFF state Alert II
- オフライン保守ユーティリティ
- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能

豊富な機能搭載

- サウンドスピーカ内蔵
- オーディオ端子(LINE-IN/LINE-OUT/MIC/PHONE)搭載
- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能
- Ultra160 SCSI(内蔵ハードディスク用)対応
- Ultra Wide SCSI対応(5.25インチデバイスと外付けデバイス用)
- CD-RWドライブまたはCD-ROMドライブを標準装備

省電力機能

スリープ機能(Windows 2000で使用可能。オプションボードによっては機能しないものもある。)

管理機能

- ESMPRO/ServerAgent
- ESMPRO/ServerManager

自己診断機能

- Power On Self-Test (POST)
- テスト診断(T&D)

すぐに使える

- Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0/ Microsoft® Windows® 2000 Professionalインストール済み(セットアップの際に使用するオペレーティングシステムを選択します)

便利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER(システムセットアップユーティリティ)
- ExpressPicnic(セットアップパラメータFD作成ユーティリティ)
- SETUP (BIOSセットアップユーティリティ)
- SCSI Select Utility(SCSIデバイスユーティリティ)

拡張性

- PCIバス×4スロット
 - ー PCI#1~#3: 64-bit/5.0Vインタフェース
 - ー PCI#4: 64-bit/3.3Vインタフェース
- AGPバス×1スロット(AGPPro (50)対応)
- 最大4GBのメモリ(RIMM×8スロット)
- USB対応(対応したドライバが必要)
- 最大2マルチプロセッサまで搭載可能

前ページに示すとおりExpressワークステーションには、コンパクトなボディにさまざまな機能が搭載されています。また、ESMPROシリーズとExpressワークステーションやオプションの周辺機器との組み合わせにより情報を一元管理したり、バックアップを容易にした最適なシステムが構築できます。

本体管理

Expressワークステーションのハードウェアコンポーネントで実現している運用管理機能／信頼性機能を提供します。また、EXPRESSBUILDERに収録されている「ESMPRO/ServerAgent」によりシステムの状態を統合的に管理することができます。Expressワークステーションの状態は、同じくEXPRESSBUILDERに収録されている「ESMPRO/ServerManager」がインストールされたネットワーク上の管理コンピュータからチェックすることができます。

ストレージ管理

- 内蔵のハードディスクと外付けのDATなどのバックアップ装置機能を提供します。

テープ装置へのデータのバックアップはWindows NTやWindows 2000標準のバックアップアプリケーションの他にARCserve、BackupEXEC、NetBackupなどによるバックアップも可能です。なお、バックアップ装置は別売のオプションです。

- オプションのディスクアレイコントローラと内蔵のハードディスクまたはオプションの増設筐体によるディスク管理機能を提供します。

ハードディスクの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながると言えます。Expressワークステーションが提供するディスクアレイコントローラを使用することにより、ディスクドライブをグループ化して冗長性を持たせることでデータの損失を防ぐとともにハードディスクの稼働率を向上することができます。

ネットワーク管理

クライアント／サーバシステムを構築した場合にネットワーク構成機器(サーバ／ワークステーション、ルータ、Hubなど)を監視し障害や過負荷状態を検出することができます。なお、ルータやHubの監視にはESMPRO/Netvisorなどの関連製品が必要です。

電源管理

商用電源のトラブルは、ワークステーションを停止させる大きな原因のひとつです。

停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリーから電源を供給。システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに、電圧や電流の変動を抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュールなどによるコンピュータの自動・無人運転も実現することもできます。

Expressワークステーションでは、NEC社製多機能UPS(I-UPSPro)とAPC社製Smart-UPSの2種類の無停電電源装置を提供しており、ESMPRO/UPSController、PowerChute *plus*で管理・制御します。

導入のポイント

Expressワークステーションを導入するにあたって重要なポイントを説明します。

システム構築のポイント

お使いになるシステムにExpressワークステーションを導入するにあたり、次の点について留意してください。

まずはじめにExpressワークステーション、および添付品がすべてそろっていることを確認してください(添付の構成表を参照してください)。万一、足りないものや破損しているものがあつたときはお買い求めの販売店に連絡してください。また、システムを構築するために必要となる機器についても確認しましょう。

日常での運用において、Expressワークステーションの状態を管理・監視できるようなシステムを構築しておくことが望めます。

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER™」には、Expressワークステーション、およびExpress5800製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリケーション「ESMPRO®」が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。

ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

なお、Expressワークステーションに障害が発生した際に、NECフィールディング(株)がアラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」をご利用することもお検討ください。

電源を入れる前に

Expressワークステーションをセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

① ハードウェアのセットアップ

Expressワークステーションを箱から取り出し、最適な場所に設置後、キーボード、マウス、ディスプレイ装置のケーブル、電源コードの順でExpressワークステーション背面のコネクタに接続します。

モデルによっては、グラフィックスアクセラレータボードが別売のがあります。ボードを取り付けてからケーブルを接続してください。



オペレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、グラフィックスアクセラレータボードを除く内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。ただし、CPUおよびメモリ(Windows NT4.0をインストールする場合は、3GBまで)は取り付けをお勧めします。

② オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションにはWindows 2000 Professional 日本語版とWindows NT 4.0 Workstation 日本語版がすでにインストールされています。そのまま電源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用できるようになっています(使用するオペレーティングシステムは初めて電源をONにした後に選択します)。

詳しい手順は13ページで説明しています。



オペレーティングシステムの選択で、選択しなかった方のオペレーティングシステムをExpressワークステーションにインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入しなければいけません。

[システムを修復する場合は．．．]

システムの修復をするときは、以下の2つの方法があります。

● システムの修復

システムの修復とは、何らかの原因でOSを動作させるために必要なファイルが破損した場合に、バックアップCD-ROMを使用してシステムを起動できる状態にするものです。

破損したファイルが修復対象となっている場合は、各種ユーティリティやユーザー情報なども保存された状態でシステムを起動できるようにすることができますが、システムの修復を行っても、OSが完全な状態で起動されるとは限りません。その場合は次に説明する「再セットアップ」でシステムを復旧させてください。

システム修復の方法については「運用・保守編」で説明しています。

● 再セットアップ

システムの破損などが原因でオペレーティングシステム(OS)を起動できなくなった場合などに添付のバックアップCD-ROMを使ってExpressワークステーションを再セットアップしてください。

バックアップCD-ROMを用いた方法については29ページで説明しています。

③ 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入されたメモリやハードディスクなどの内蔵デバイスを取り付け、プリンタなどの周辺機器を接続します。接続する周辺機器用のデバイスドライバをインストールする場合は、周辺機器に添付の説明書を参照してインストールしてください。

④ 障害処理のためのセットアップ

障害が起きた時に障害からより早く確実に復旧できるように、メモリダンプの設定、ワトソン博士の設定を行います。



NECでは、ESMPROの他にも「エクスプレス通報サービス」と呼ばれるExpress5800製品の状態監視用サービスを用意しています。Express5800製品に障害が起きたときに自動的に保守サービス会社に通報され、保守サービス会社から保守情報の通知または保守員の派遣などのサービスを受けることができます。エクスプレス通報サービスをご契約することをお勧めします。

⑤ 管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストールします (ESMPRO/ServerAgentは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます)。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害情報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください (インストールについては「ソフトウェア編」で説明しています)。ESMPRO/ServerManagerはExpressワークステーションにインストールして使用することもできます。



添付のCD-ROMには、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」の2つのアプリケーションが含まれています。ESMPROには、その他にもさまざまな用途に応じたアプリケーションが用意されています。詳しくはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

⑥ システム情報のバックアップ

ハードウェアとソフトウェアのすべてのセットアップを完了したら、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」のユーティリティを使用してExpressワークステーションのシステム情報のバックアップをとります。

装置の故障による部品交換や修理の後にバックアップしていたシステム情報をリストアすることで故障前と同じ状態でExpressワークステーションを使用することができます。

購入時のハードディスクの状態と保守用パーティション

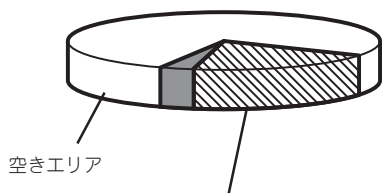
Expressワークステーションに標準装備のハードディスクにはMicrosoft Windows 2000 Professional/Microsoft Windows NT Workstation 4.0と保守用ユーティリティがあらかじめインストールされています。

オペレーティングシステムのパーティションサイズはオペレーティングシステムのセットアップの時に設定できます。

また、約16MBほどの「保守用パーティション」がもうけられています。

「保守用パーティション」とは、Expressワークステーション特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティションで、16MB程度の領域を内蔵ハードディスク上へ確保します(保守用パーティションは、1度作成されると以降は作成されません)。

本装置の構成情報や専用のユーティリティを使用するために必要な情報が保存される。(このパーティションを削除しないでください)



システムエリア
Microsoft Windows 2000 Professional
(ハードディスクの空き容量分まで拡張可能)/Microsoft Windows NT
Workstation 4.0(最大4GB)



- オペレーティングシステムはセットアップの際にどちらを使用するか選択します。セットアップの完了後は、選択したオペレーティングシステムで起動します。オペレーティングシステムの選択で、選択しなかった方のオペレーティングシステムをExpressワークステーションにインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入しなければいけません。
- 保守用パーティションは、その存在がOS上から見えることがありますが、構成情報を保持するためにもこのパーティションを削除しないでください。

Expressワークステーションのセットアップの際に保守用パーティションへ自動的にインストールされるユーティリティは、「システム診断ユーティリティ」と「オフライン保守ユーティリティ」です。

メモリの縮退機能

POST(Power On Self-Test:電源ON後の自動診断プログラム)でメモリ(RIMM)の故障を検出すると自動的に故障したRIMMを切離して運用する機能です(故障したRIMMは早めに交換することをお勧めします)。

縮退機能は、RIMMを増設し、2組以上のRIMMを搭載してるシステムでの運用中に、いずれか1組のRIMMが正常に動作している場合に有効です(本装置では、2枚1組単位でメモリを増設します)。RIMMが故障するとメモリ容量が少なくなり、システムの動作速度が遅くなったり、アプリケーションを動作させることができなくなったりすることがあります。

RIMMの故障は、POSTを実行している時に表示される画面や、BIOSセットアップユーティリティ、ESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PC上で確認することができます。

障害の発生したRIMMを交換した場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動し、「Advanced」メニューの「Memory Reconfiguration」で[Clear RIMM Errors]を選択します。

CPUの縮退機能

POST(Power On Self-Test:電源ON後の自動診断プログラム)でCPUの故障を検出すると自動的に故障したCPUを切離して運用する機能です(故障したCPUは早めに交換することをお勧めします)。

縮退機能は、CPUを増設し、2つ以上のCPUでの運用中に、いずれか1つのCPUで障害が発生した場合に有効です。

CPUが故障すると、システムの動作速度が遅くなったり、アプリケーションを動作させることができなくなったりすることがあります。

CPUの故障は、POSTを実行している時に表示される画面や、BIOSセットアップユーティリティ、ESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PC上で確認することができます。また、障害の発生したCPUを交換した場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動し、「Advanced」メニューの「CPU Reconfiguration」で「Clear CPU Errors」を選択します。

ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらかじめ確認しておくことをお勧めします(後から変更することもできます)。

ネットワークを経由して、他のシステムからの指示によりExpressワークステーションの電源を投入(リモートパワーオン)する場合は、BIOSセットアップユーティリティの「System Hardware」メニューの「Wake On Event」で「Wake On LAN」を「Enabled」に設定します。

UPS接続時のポイント

Expressワークステーションの電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続している場合、UPSからExpressワークステーションの電源を制御できる電源連動(AC-LINK)機能を使用することができます。

このAC-LINK機能を使用してExpressワークステーションの電源ON/OFFを行う場合は、BIOSセットアップユーティリティの「System Hardware」メニューの「AC-LINK」を「Power On」に設定します。また、UPSを正しく動作させるためにお使いになるUPSに合ったソフトウェアの設定が必要です。ソフトウェア編を参照して正しく設定してください。

ストレージ機能構築のポイント

本装置では、本体のNarrow SCSIコネクタや別売品のSCSIコントローラボードを搭載することにより外付けのバックアップ装置を接続することができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的に大切なデータのバックアップをとることをお勧めします。主なバックアップツールは次のとおりです。

- Windows2000バックアップツール(Windows 2000標準)
- NTBackup(Windows NT標準)
- ARCserve(コンピュータ・アソシエイツ社)
- BackupExec(ベリタス社)
- NetBackup(ベリタス社)

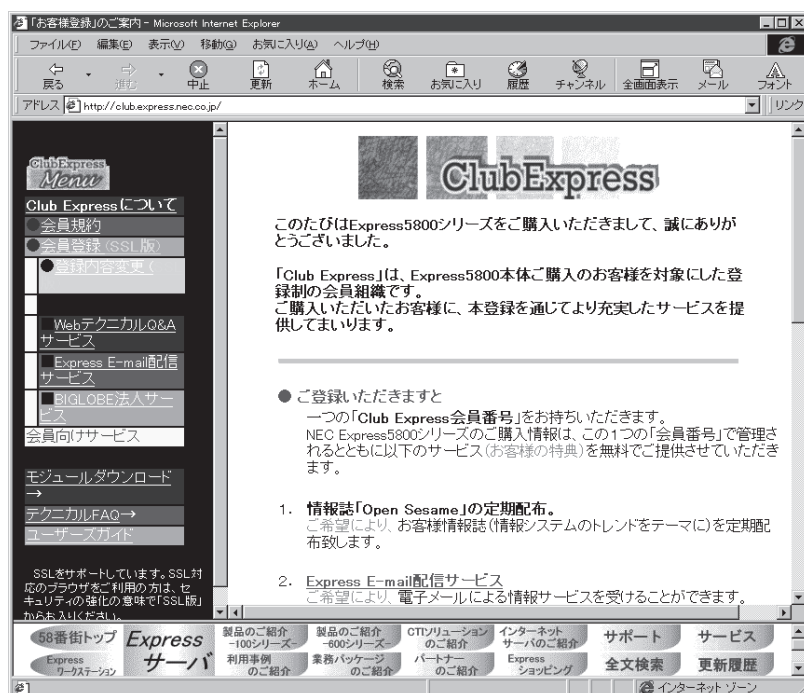
DAT装置などのテープデバイスは、ヘッドの汚れによりデータの読み書きが正常に行われず、バックアップ／リストア中にエラーが発生する場合があります。クリーニングテープにより、定期的にヘッドを清掃するよう心がけてください。

お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、Club Expressのインターネットホームページ

<http://club.express.nec.co.jp/>

にてご登録ください。



「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。是非、ご覧ください。

セットアップ

箱を開けてからお使いになるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は「再セットアップ」を参照してください。

1 ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. グラフィックスアクセラレータボードが別売のモデルの場合は、別途購入したオプションのグラフィックスアクセラレータボードを取り付ける。(→80ページ)

重要

その他の内蔵デバイスはオペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。ただし、CPUおよびメモリ(Windows NT4.0をインストールする場合は、3GBまで)は取り付けることをお勧めします。

2. Expressワークステーションを使用するのに最も適した場所(環境)に設置する。(→57ページ)
3. ディスプレイ装置やマウス、キーボードのケーブルをExpressワークステーションに接続する。(→59ページ)

重要

プリンタなどの周辺機器はオペレーティングシステムのセットアップを完了してから接続してください。

4. 添付の電源コードをExpressワークステーションと電源コンセントに接続する。(→59ページ)
5. 装置の構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。
102ページに示す設定例を参考にしてください。

チェック

BIOSのパラメータで時刻や日付の設定と確認をしてください。

2 オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションのハードディスクは、Windows 2000 ProfessionalとWindows NT 4.0 Workstationがお客様の個別情報を設定する前の状態でインストール済みです。

始めて電源をONにするときは、電源ON後に使用するオペレーティングシステムを選択して、セットアップを続けます。再セットアップの際は、装置に添付の「バックアップCD-ROM」を使用してオペレーティングシステムのインストールからセットアップまでを行います。

セットアップの手順

初めて電源をONにしてセットアップするときは、次の手順でExpressワークステーションを起動して、セットアップを始めます。



- セットアップを完了するまでは、キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外のデバイスを接続しないでください。
- 本装置に添付されているService Pack以降のService Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報をお確かめの上、ご使用ください。

Express5800[58番街] : <http://express5800.com/>

1. CD-ROMおよびフロッピーディスクがそれぞれのドライブにセットされていないことを確認してからExpressワークステーションの電源をONにする。

スタート画面が表示されます。注意事項をよく読んでください。

2. <Enter>キーを押す。

オペレーティングシステムを選択する画面が表示されます。

NEC Express5800シリーズをご購入いただきありがとうございます。
本装置には、以下のオペレーティングシステムがプレインストールされています。

- Windows(R) 2000 Professional
- Windows NT(R) Workstation Version 4.0

お客様には、この中のひとつをセットアップすることができます。
以下の注意をよくお読みになり、セットアップを開始してください。

<<注意>>

- セットアップ中は指示がない限り途中で中断しないでください。
(もし中断した場合は、再セットアップが必要な場合があります。)
- セットアップの途中で画面が止まっているように見えることがあっても正常に動作しているもので、電源を切らないでください。
- セットアップを開始する場合は、[Enter]キーを押してください。
- セットアップを開始しない場合は、[Esc]キーを押してください。

3. カーソルキー(↑・↓)で使用するオペレーティングシステムを選択して、<Enter>キーを押す。



ここで選択しなかったオペレーティングシステムは自動的に削除されます。選択しなかったオペレーティングシステムを本装置で使用するためには、別途購入してください。

オペレーティングシステムの選択

本装置にセットアップするオペレーティングシステムを選択してください。
上下のカーソル移動キー(↑・↓)で選択後、[Enter]キーで決定します。
セットアップを中断するときは、[Esc]キーを押してください。

> Windows(R) 2000 Professional <
Windows NT(R) workstation Version 4.0

<<注意>>

ここで選択されなかったオペレーティングシステムは自動的に削除されます。
選択されなかったオペレーティングシステムをセットアップするためには、別途、製品版をご購入いただく必要があります。

選択したオペレーティングシステムのセットアップが始まります。再起動後、お客様固有のセットアップをするための画面が表示されます。表示されたメッセージに従ってセットアップを進めてください。

以下のソフトウェアも併せてインストールされます。ソフトウェアのセットアップについては、「ソフトウェア編」または添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス
- Global Array Manager
- Array Recovery Tool
- 自動クリーンアップツール

4. 各種デバイスドライバをインストールする。

この後の説明を参照してください。

5. 障害処理のためのセットアップをする。

22ページを参照してください。

6. 28ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上で初めてのセットアップは終了です。

デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスのドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

Windows 2000 Professional

● ディスクドライバ

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

● PRO Set II

PROSet II は、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSet II を使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバスイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合にPROSet II が必要になります。

Proset II をインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROM/RWドライブにセットする。
2. スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「<CD-ROMのドライブレータ>:¥WINNT¥W2K¥RS512C¥HD1¥PROSET2」ディレクトリ内の「SETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PROSet II Setup]が起動します。
4. [Welcome]ウィンドウの[Next]ボタンをクリックする。
もし、「デジタル署名が見つかりませんでした」のダイアログメッセージが表示された場合は、「はい」を選択してください。
[Intel(R) PROSet II Setup]に[Setup Complete]ウィンドウが表示されます。
5. [Finish]ボタンをクリックする。
[Intel(R) PROSet II Setup]が終了します。
6. システムを再起動する。

● ネットワークドライバ

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です(システムの再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。



Windows 2000起動後、ネットワークドライバを修正/追加したい場合は、以下を参照してください。

Microsoft管理コンソールのヘルプ → 「デバイスマネージャ」 → 「デバイスドライバを更新または表示する」 → 「デバイスドライバを更新または変更するには」

ー PROSet II をインストールしてない場合

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[ネットワークとダイヤルアップ接続]をクリックする。
[ネットワークとダイヤルアップ接続]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。
[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [構成]ボタンをクリックする。
ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。
4. [詳細設定]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定する。
5. ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。
6. [ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

ー PROSet II をインストール済みの場合

1. [コントロールパネル]ウィンドウで、[Intel(R) PROSet II]アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PROSet II]ダイアログボックスが表示されます。
2. リスト中の「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)」にマウスカーソルを合わせクリックする。
3. [Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定し、[OK]ボタンをクリックする。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

● グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)

Expressワークステーションまたはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク(フロッピーディスクかCD-ROM)を使用してドライバをインストール後、必要に応じて表示の設定等を行ってください。

● サウンドドライバ

サウンドドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)が、以下の設定を必ず行ってください。



この設定は必ず行ってしてください。

- ① [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[サウンドとマルチメディア]をクリックする。
[サウンドとマルチメディアのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- ② [オーディオ]タブをクリックする。
- ③ [MIDI音楽の再生]の[優先するデバイス]で、[Microsoft GS Wavetable SW Synth]を選択する。
- ④ [OK]ボタンをクリックする。

● SCSIドライバ(N8103-55)のセットアップ

Windows 2000をインストールした後、N8103-55 SCSIコントローラを取り付ける場合は、以下の手順に従ってN8103-55 SCSIドライバをインストールしてください。

なお、本ドライバをインストールするには、サポートディスク「Windows2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が必要です。サポートディスクは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」から作成します。作成方法にはEXPRESSBUILDERからExpressワークステーションを起動して表示されるメニューで作成する方法と、Windows 95/98/2000またはWindows NT 4.0で動作しているコンピュータにEXPRESSBUILDERをセットすると表示されるメニューから作成する2つの方法があります。139ページからの説明を参照して事前に作成してください。

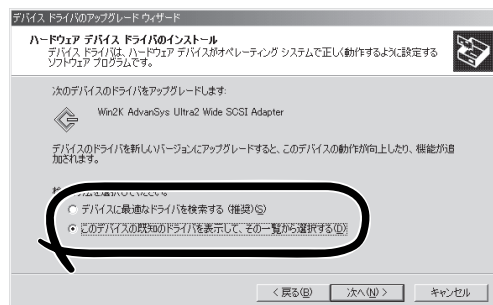
1. N8103-55 SCSIコントローラを取り付けて、システムを立ち上げる。
[新しいハードウェアウィザード]が起動されます。

2. [次へ]ボタンをクリックする。

3. 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、[次へ]ボタンをクリックする。

4. 「SCSIとRAIDコントローラ」を選択して、[次へ]ボタンをクリックする。

5. 「Windows 2000 OEM DISK for EXPRESSBUILDER」をフロッピーディスクドライブにセットし、[ディスク使用]ボタンをクリックする。



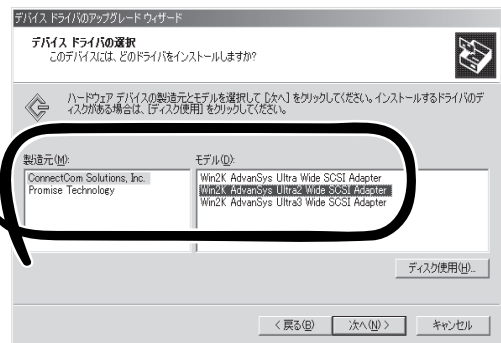
6. 「A:¥」と入力し[OK]ボタンをクリックする。

7. 製造元「ConnectCom Solutions,Inc」、SCSIアダプタ「Win2K AdvanSys U2W/U3W SCSI Adapter」を選択し、[次へ]ボタンをクリックする。

8. デバイスドライバのインストール開始画面で[次へ]ボタンをクリックする。

重要

「デジタル署名が見つかりませんでした。」というメッセージが表示され、「インストールを続行しますか?」と確認されることがあります。[はい]を選択してください。



ドライバのコピーが開始され、終了後、[完了]を選択すると、インストールは終了します。

9. システムを再起動する。
10. 再起動後、システムのアップデートを行う。

Windows NT 4.0 Workstation

オプションのデバイスのドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

● ディスクドライバ

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

● ネットワークドライバ

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です(システムの再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ネットワーク]アイコンをダブルクリックする。
[ネットワーク]ダイアログボックスが表示されます。
3. [アダプタ]タブをクリックし、ネットワークドライバを選択後、[プロパティ]ボタンをクリックする。
ネットワークアダプタの[Intel(R)PROSet II]ダイアログボックスが表示されます。
4. [Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定する。
5. ネットワークアダプタの[Intel(R)PROSet II]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。
6. [ネットワーク]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加／削除をしてください。[ネットワーク]ダイアログボックスから[プロトコル]タブをクリックしてプロトコルを設定する画面を表示させて行います。

● グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)

Expressワークステーションまたはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク(フロッピーディスクかCD-ROM)を使用してドライバをインストール後、必要に応じて表示の設定等を行ってください。

● サウンドドライバ

サウンドドライバは以下の手順でインストールします。

ー 「YAMAHA AC-XG Driver」のインストール

1. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROM/RWドライブにセットする。
2. スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスの[参照]ボタンをクリックする。
[ファイルの参照]ダイアログボックスが表示されます。
4. [ファイルの参照]ダイアログボックスの[ファイル名]に「CD-ROMドライブ名：¥WINNT¥SOUND¥YAMAHA¥ANI1019N¥setup.exe」と指定し、[OK]ボタンをクリックする。
インストールウィザードが開始し、[ようこそ]ダイアログボックスが表示されます。
5. [次へ]ボタンをクリックする。
[YAMAHA AC-XG Audio Driver]ダイアログボックスが表示されます。
6. [OK]ボタンをクリックする。
[Install Shield ウィザード]ウィンドウが表示されます。
7. [はい、今すぐコンピュータを再起動します。]のラジオボタンが選択されていることを確認し、[完了]ボタンをクリックする。
システムが再起動されます。

ー 「YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50」のインストール

1. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROM/RWドライブにセットする。
2. スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスの[参照]ボタンをクリックする。
[ファイルの参照]ダイアログボックスが表示されます。

4. [ファイルの参照] ダイアログボックスの[ファイル名]に「CD-ROMドライブ名：¥WINNT¥SOUND¥YAMAHA¥SYXG50_3¥DISK1¥SETUP.EXE」と指定し、[OK]ボタンをクリックする。
[YAMAHA Softsynthesizer S-YXG50 Ver,3.01.21JP セットアップ]のインストールウィザードが開始し、[ようこそ]ダイアログボックスが表示されます。
5. [次へ]ボタンをクリックする。
[インストール先の選択]ダイアログボックスが表示されます。
6. [次へ]ボタンをクリックする。
[プログラムフォルダの選択]ダイアログボックスが表示されます。
7. [次へ]ボタンをクリックする。
[質問]ダイアログボックスが表示されます。
8. [はい]ボタンをクリックする。
[製品ライセンス契約]ダイアログボックスが表示されます。
9. [はい]ボタンをクリックする。
[Windowsの再起動]ダイアログボックスが表示されます。
10. [はい、直ちにコンピュータを再起動します。]のラジオボタンが選択されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックする。
システムが再起動されます。

SCSIドライバ(N8103-55)のセットアップ

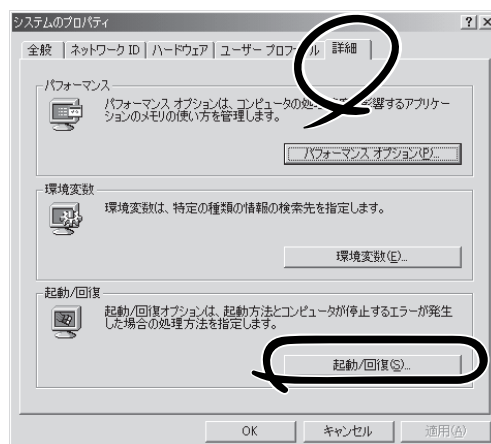
Windows NT 4.0をインストールした後、N8103-55 SCSIコントローラを取り付ける場合は、以下の手順に従ってN8103-55 SCSIドライバをインストールしてください。
なお、本ドライバをインストールするには、サポートディスク「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が必要です。サポートディスクは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」から作成します。作成方法にはEXPRESSBUILDERからExpressワークステーションを起動して表示されるメニューで作成する方法と、Windows 95/98/2000またはWindows NT 4.0で動作しているコンピュータにEXPRESSBUILDERをセットすると表示されるメニューから作成する2つの方法があります。139ページからの説明を参照して事前に作成してください。

1. N8103-55 SCSIコントローラを取り付けて、システムを立ち上げる。
2. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
3. [SCSIアダプタ]アイコンをダブルクリックする。
4. [ドライバ]タブを選択して、[追加]ボタンをクリックする。
5. 「Windows NT 4.0 OEM DISK for EXPRESSBUILDER」をフロッピーディスクドライブにセットし、[ディスク使用]ボタンをクリックする。
6. 「A:¥」と入力し[OK]ボタンをクリックする。

7. 製造元「ConnectCom Solutions,Inc」、SCSIアダプタ「NT4 AdvanSys UW/U2W/U3W SCSI Adapter」を選択し、[OK]ボタンをクリックする。

8. システムを再起動する。

9. 再起動後、システムのアップデートを行う。



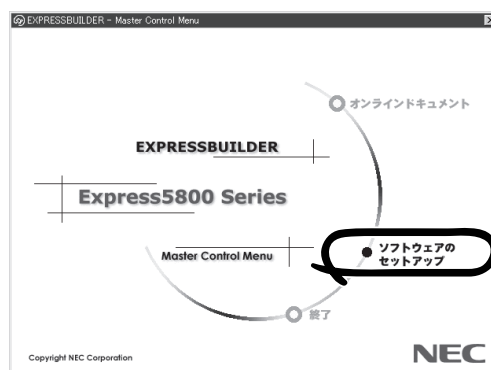
システムのアップデート ～Service Packの適用～

システムのアップデートは、Expressワークステーション購入時には自動で適用されていますが、次のような場合は、必ずシステムのアップデートを行ってください。

- システムの修復を行った場合
- システムの構成を変更した場合

管理者権限のあるアカウント (Administratorなど) で、システムにログインした後、C D - R O M「EXPRESSBUILDER」をExpressワークステーションのCD-ROM/RWドライブにセットしてください。

表示された画面「マスターコントロールメニュー」の[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックし、メニューから[システムのアップデート]をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、Service Packを適用してください。



3 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定 ～Windows 2000/Windows NT 4.0共通～

Expressワークステーション内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。



メモリダンプの注意

- メモリダンプの設定や採取は保守員が行います。お客様が行うことはできません。
- ここで示す設定後、障害が発生した時にメモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

Windows 2000 Professionalの場合

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [システム]アイコンをダブルクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細]タブをクリックする。
4. [起動/回復]ボタンをクリックする。

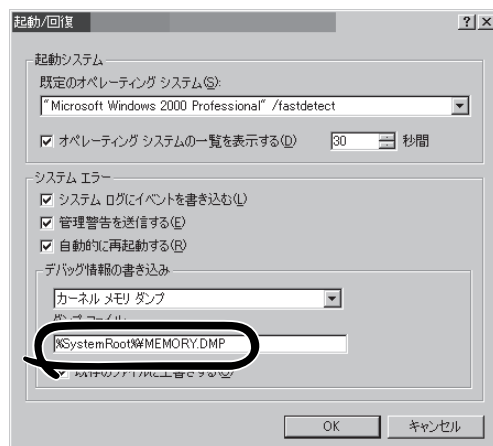
5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Cドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

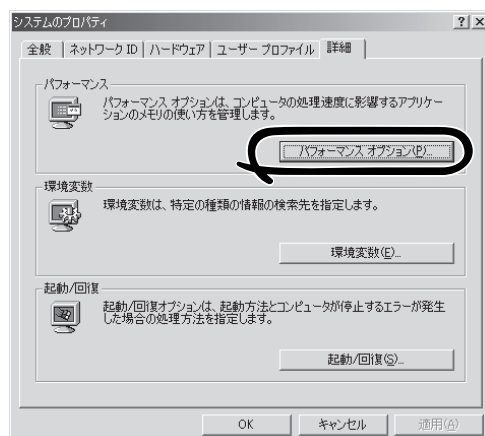
C:\MEMORY.DMP

重要

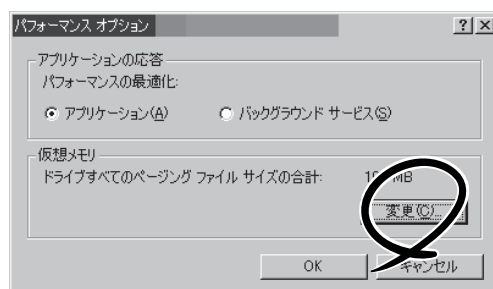
- デバッグ情報の書き込みは[カーネルメモリダンプ]を指定することを推奨します。
- Expressワークステーションに搭載しているメモリサイズ+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設を行った場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)書き込み先の空き容量の確認を行ってください。



6. [パフォーマンスオプション] ボタンをクリックする。



7. [仮想メモリ] ボックスの[変更] ボタンをクリックする。



8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]ボタンをクリックする。

ページングファイルの[初期サイズ]は、搭載メモリサイズの約1.5倍に設定してください。

🔑 重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。STOPエラーが発生したときにデバッグ情報(メモリダンプ)を採取するために必要です。ページングファイルの[初期サイズ]を[推奨]値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- メモリを増設した際は、必ずメモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。
- 再セットアップを行った場合は、ページングファイルがOSパーティションに作成されることがあります。ページングファイルを作成するドライブを任意に変更してください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。

9. [OK]ボタンをクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

Windows NT 4.0 Workstationの場合

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [システム]アイコンをダブルクリックする。

[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [起動/シャットダウン]タブをクリックする。

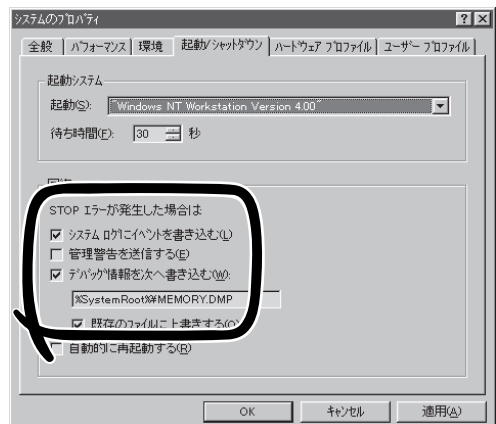
4. [システムログにイベントを書き込む]をチェックする。

5. [デバッグ情報を次へ書き込む]をチェックする。

6. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP



🔑 重要

- Expressワークステーションに搭載しているメモリ容量+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設を行った場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)書き込み先の空き容量の確認を行ってください。

7. [パフォーマンス]タブをクリックする。
8. [変更]ボタンをクリックする。
[仮想メモリ]ダイアログボックスが表示されます。
9. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]ボタンをクリックする。

ページングファイルの[初期サイズ]は、「搭載メモリサイズ」+ 12MB以上を目安に設定してください。

重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。STOPエラーが発生したときにデバッグ情報(メモリダンプ)を採取するために必要です。ページングファイルの[初期サイズ]を[推奨]値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できません。
- メモリを増設した際は、必ずメモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。
- 再セットアップを行った場合は、ページングファイルがOSパーティションに作成されることがあります。ページングファイルを作成するドライブを任意に変更してください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押下し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。

10. [OK]ボタンをクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

重要

設定後、障害が発生してシステムが再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。

ワトソン博士の設定 ～Windows 2000/Windows NT 4.0共通～

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとExpressワークステーションを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。



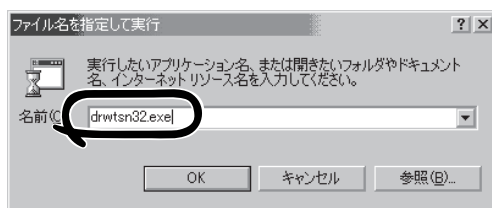
ワトソン博士の設定は、Expressワークステーション購入時、および再セットアップ時に自動的に設定されています。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。

<Windows 2000での表示例>



3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

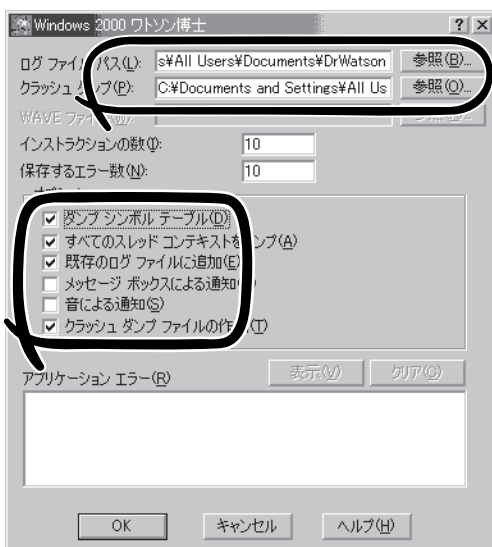
「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



チェック

ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

<Windows 2000での表示例>



4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



ヒント

「クラッシュダンプファイル」は Windows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ☐ ダンプシンボルテーブル
- ☐ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- ☐ 既存のログファイルに追加
- ☐ クラッシュダンプファイルの作成

6. [OK]ボタンをクリックする。

システム修復情報の更新 ～Windows NT 4.0のみ～

オペレーティングシステムのデータが破損した場合にそなえて、システムの修復が行えるようにするためにシステム構成を変更したら、必ず「システムのアップデート」とともに「システム修復情報の更新」をしてください。システム修復情報にはコンフィグレーションファイルやレジストリファイルなどがあります。



システム修復情報はフロッピーディスクにも保存できますが、アプリケーションのインストールなどでレジストリが大きくなった場合、1枚のフロッピーディスクでは保存しきれなくなることがあります。

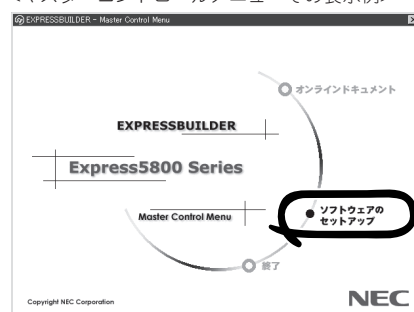
この場合、修復ディスクは正しく作成されませんが、正しく作成されなかったことを報告するようなメッセージは表示されません。

Windows NTでは、ハードディスク上にある修復情報を見て、システムの修復ができるので、特に修復ディスクを作成する必要はありません。



システムの修復を行う場合に「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるフロッピーディスクをセットするよう要求される場合があります。ディスクは、EXPRESSBUILDERの「マスターコントロールメニュー」の[ソフトウェアのセットアップ]またはEXPRESSBUILDERからExpressワークステーションを起動して、[ツール]メニューから作成することができます(すでに作成している場合は、作成し直す必要はありません)。詳しくはソフトウェア編を参照してください。

<マスターコントロールメニューでの表示例>



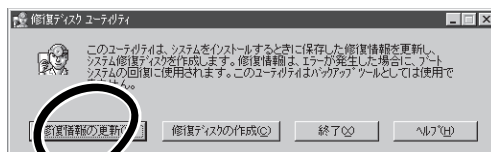
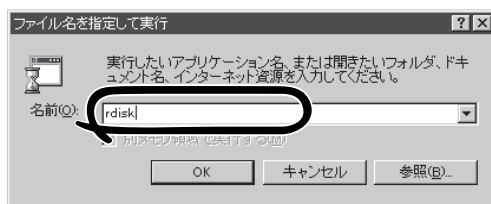
- 「システム修復情報の更新」はシステムに障害が発生し、起動しなくなったときにシステムが起動できるように復旧することを目的としています。「システム修復情報の更新」はシステムのバックアップを目的としたものではありません。
- 運用中にシステムやコンポーネントを変更した場合にも以下の手順で「システム修復情報の更新」を行ってください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「rdisk.exe」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

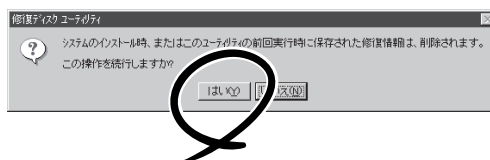
[修復ディスクユーティリティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [修復情報の更新]ボタンをクリックする。



「システムのインストール時またはこのユーティリティの前の実行時に保存された修復情報は、削除されます。この操作を続行しますか?」というメッセージが表示されます。

4. [はい]ボタンをクリックする。
「システム修復ディスクを作成しますか?」というメッセージが表示されます。
5. [いいえ]ボタンをクリックする。
6. [終了]ボタンをクリックする。



4 管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、本装置監視用の「ESMPRO/ServerAgent」、およびExpressワークステーション・ワークステーション管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらのユーティリティは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます。



詳細については、「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」または装置に添付されている別冊の説明書などを参照して使用環境に合った状態に設定してください。また、ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。



再セットアップを行ったときは、個別にインストールしてください。

5 システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）できなくなります。次の手順に従ってバックアップをしてください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をExpressワークステーションのCD-ROM/RWドライブにセットして、再起動する。
EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
3. [ツール]—[オフライン保守ユーティリティ]を選ぶ。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

再セットアップ

再セットアップとは、システムの破損などが原因でオペレーティングシステム(OS)を起動できなくなった場合などに添付の「バックアップCD-ROM」を使ってハードディスクを出荷時の状態に戻してシステムを起動できるようにするものです。



再セットアップをする前にシステムの修復を試してみてください。詳しくは「運用・保守編」をご覧ください。

再セットアップは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」のメニューから起動します。[シームレスセットアップ]をクリックすると、OSの再セットアップを開始します。



- 再セットアップできるオペレーティングシステムはそれまで使用していたオペレーティングシステムです(Windows 2000かWindows NT 4.0のいずれか)。前回と異なるオペレーティングシステムをインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入してください。
- ExpressワークステーションのBIOS設定でマザーボード上のLANコントローラのオプションROMを展開できるように設定している場合は、これを無効にしてください。
[Advanced]→[Option ROM]→[On Board LAN]→[Disabled]
詳しくは「ハードウェア編」の「システムBIOS」を参照してください。



Windows 2000の再セットアップ～シームレスセットアップ～

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってExpressワークステーションをセットアップします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS(Windows 2000・Windows NT 4.0)、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。ハードディスクを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。



シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。



- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

シームレスセットアップは、この情報を元にしてすべてのセットアップを自動で行います。この間は、Expressワークステーションのそばにいて設定の状況を確認する必要はありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態にExpressワークステーションをセットアップすることができます。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクをご利用ください。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。

事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておく、とシームレスセットアップの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます。(セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正することもできます)。Expressワークステーションの他にWindows 95/98/Me、Windows NT 3.51以降またはWindows 2000で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします。

ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、146ページで説明しています。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

本装置がサポートしているOSはMicrosoft® Windows® 2000 Professional 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)です。

Windows NT 4.0については、この後の項を参照してください。その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、151ページの「オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール」を参照して、セットアップ情報ファイルを作成してください。

Windows 2000について

Windows 2000は、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。



- インストールを始める前にオプションの増設やExpressワークステーション本体のセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。
- NECが提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。
- シームレスセットアップを完了した後に22ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。

サービスパックについて

Service Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報をお確かめの上、ご使用ください。

Express5800[58番街] : <http://express5800.com/>

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

Windows 2000をインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

ハードディスクの接続について

OSをインストールするハードディスクを接続しているSCSIコントローラ以外のSCSIコントローラにハードディスクを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

$$\begin{aligned} 1000\text{MB} + \text{ページングファイルサイズ} + \text{ダンプファイルサイズ} \\ 1000\text{MB} &= \text{インストールに必要なサイズ} \\ \text{ページングファイルサイズ(推奨)} &= \text{搭載メモリサイズ} \times 1.5 \\ \text{ダンプファイルサイズ} &= \text{搭載メモリサイズ} + 12\text{MB} \end{aligned}$$



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は、「2048MB + 12MB」となります。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述の計算方法から

$$1000\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) = 2292\text{MB}$$

となります。



シームレスセットアップでインストールする場合、必要最小限のパーティションサイズは以下のように計算してください。

- Windows 2000 Service Packを適用しない場合
「前述の必要最小限のパーティションサイズ」もしくは「2000MB」のうち、どちらか大きい方
- Windows 2000 Service Packを適用する場合
「前述の必要最小限のパーティションサイズ + 850MB」もしくは「4095MB」のうち、どちらか大きい方

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクへの再インストールについて

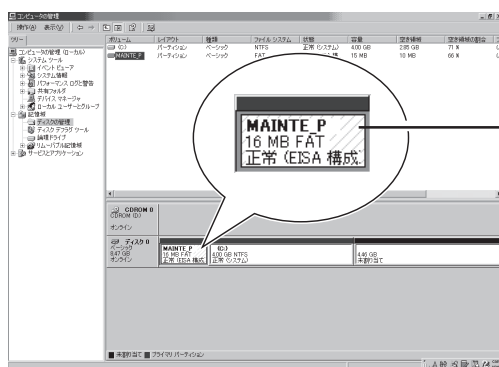
ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。

既存のパーティションを残したい場合は、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」に格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows 2000 Professionalインストールレーションサブリメントガイド」を参照して再インストールしてください。

インストールレーションサブリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関する注意事項が記載されています。

ディスク構成について(「MAINT_E_P」と表示されている領域について)

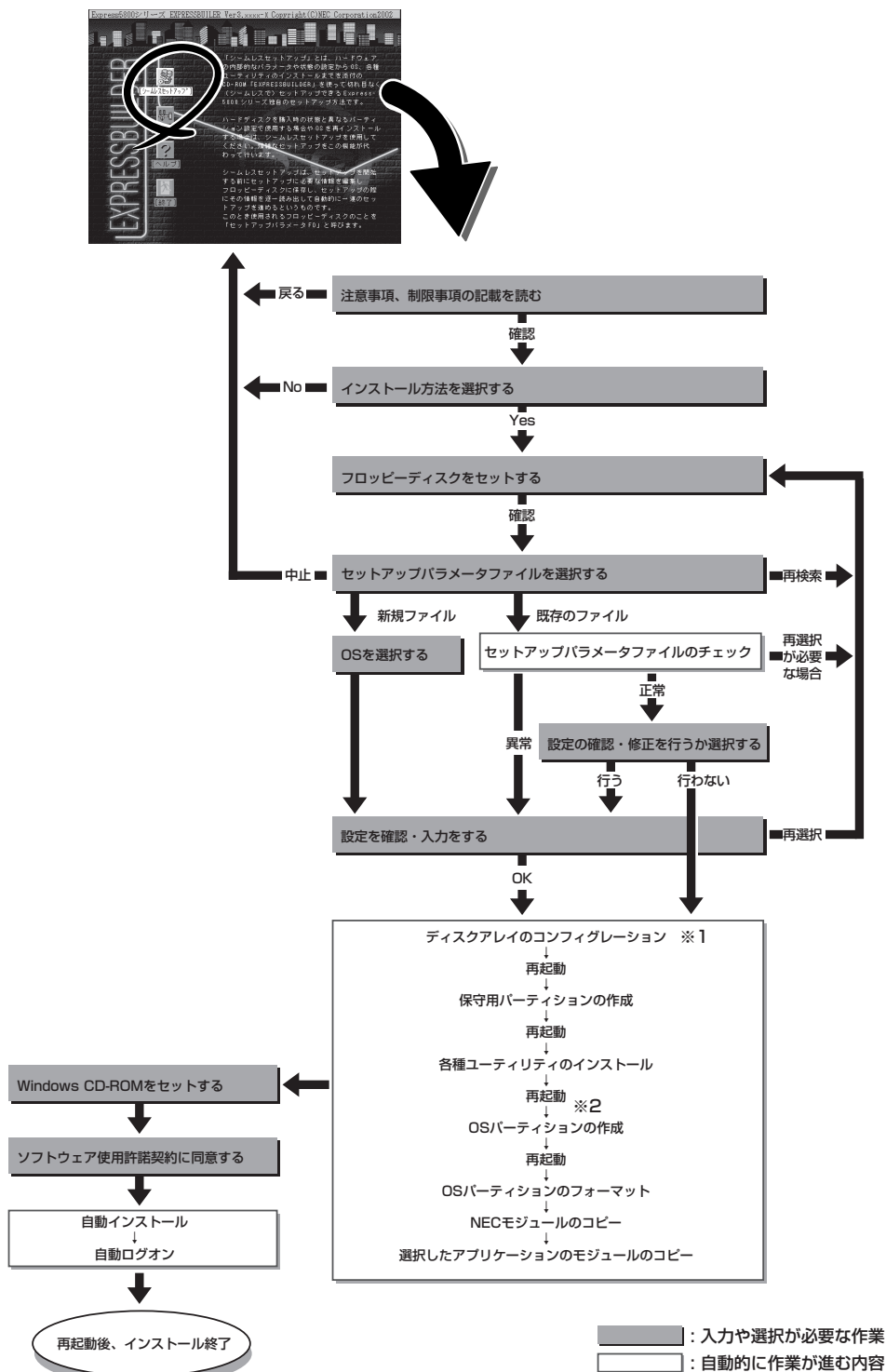
ディスク領域に、「MAINT_E_P」と表示された領域が存在する場合があります。



「MAINT_E_P」
構成情報やユーティリティを保存
するための保守用パーティション
です。削除しないでください。

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。



※1 ディスクアレイコントローラが搭載されていて、セットアップパラメータファイルで「RAIDの新規作成」がチェックされている場合のみ、この処理は実行される。
 ※2 OSの選択で「その他」を選択したときはここで終了する。

セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。

セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。



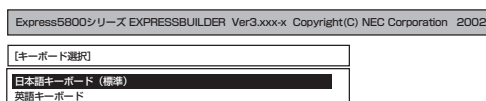
- システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。
- Windows 2000の起動後にグラフィックアクセラレータドライバやネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows 2000インストールサプリメントガイド」を参照してください。

1. 周辺装置、Expressワークステーションの順に電源をONにする。
2. ExpressワークステーションのCD-ROM/RWドライブにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressワークステーションを再起動する。
CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. Expressワークステーションで使用するキーボードを選択する。

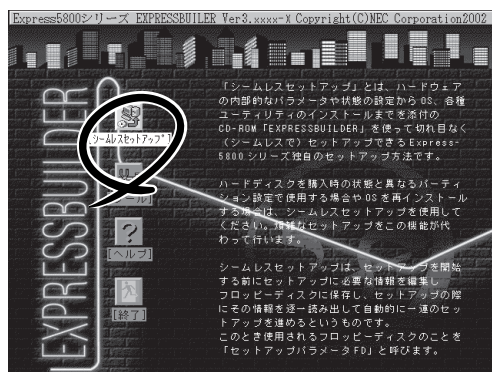
EXPRESSBUILDERを初めて起動すると、キーボードの選択メニューが現れます。このメニューは、1度設定を行うと以降は表示されません。

しばらくすると「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。



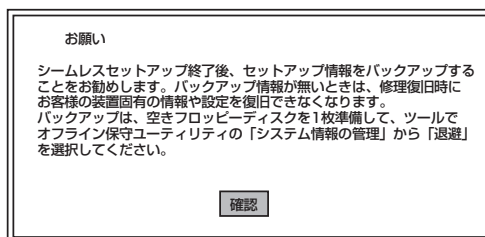
5. [シームレスセットアップ]をクリックする。

「お願い」が表示されます。



6. 記載内容をよく読んでから[確認]ボタンをクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。



7. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリックする。



チェック

「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのフォーマット済みフロッピーディスク(ブランクディスク)をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリックしてください。

【設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合】

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

- ① インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。



チェック

選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような問題がある場合(たとえばExpressPicnic Ver.3以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクを確認してください。



セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

- ② 確認する場合は[確認]ボタンを、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[スキップ]ボタンをクリックする。

[確認]ボタンをクリック→手順8へ進む

[スキップ]ボタンをクリック→手順9へ進む

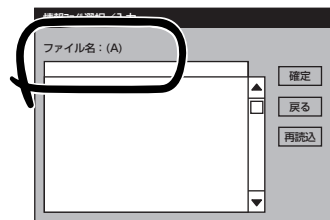
【ブランクディスクをセットした場合】

- ① [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分をクリックするか、<A>キーを押す。

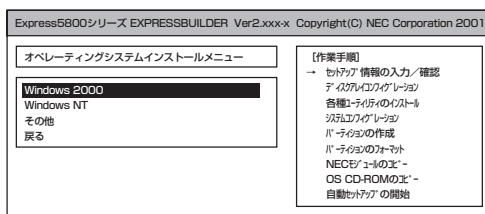
入力ボックスが表示されます。

- ② ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー]が表示されます。リストには、装置がサポートしているOSが表示されます。



- ③ リストボックスからインストールする[Windows 2000]を選択する。



8. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

Expressワークステーション本体にディスクアレイコントローラボードが搭載されている場合は、[アレイディスクの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]ボタンをクリックしてください。

次に、[NEC基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]ボタンをクリックしてください(画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。)

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ヘルプ]ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション(保守用パーティションを除く)の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション <保守用パーティション>	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
保持	削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(32ページ参照)。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設定値は実領域以上の値を指定しないでください。
- 「パーティション」に2000MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外(保守領域を除く)にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows 2000をインストールします。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。

<次ページへ続く>

重要

- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。
- セットアップの途中で、Windows 2000をインストールするパーティションを設定する画面が表示されます。このとき表示される先頭にある16MBの領域は、Express5800シリーズ特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティションです。この領域の削除は推奨しませんが、16MBの領域を確保させたくない場合は、マニュアルセットアップでインストールを行ってください。シームレスセットアップでは削除できません。

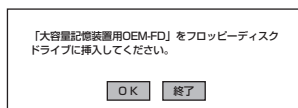
ヒント

- [NEC基本情報]画面にある[再読込]ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込]ボタンは、[NEC基本情報]画面にのみあります。
- [コンピュータの役割]画面にある[終了]ボタンをクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

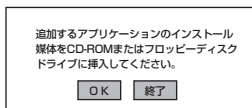
9. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。



10. 追加するアプリケーションをインストールする。

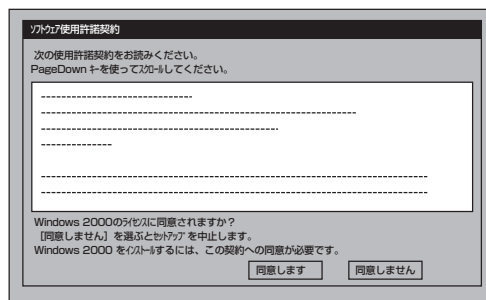
シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。



11. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」とセットアップパラメータFDをCD-ROM/RWドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows バックアップCD-ROMをCD-ROM/RWドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

12. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]ボタンをクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、[同意しません]ボタンをクリックするか、<F3>キーを押す。



重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows 2000はインストールされません。

13. NEC基本情報で「サービスパックの適用」を[する]にした場合は、次の操作をする。
- ① メッセージに従ってセットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出し、バックアップCD-ROMをCD-ROM/RWドライブから取り出す。
 - ② メッセージに従ってWindows 2000 Service PackのCD-ROMをCD-ROM/RWドライブにセットする。
- Windows 2000と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。
14. 15ページを参照し、デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップを行う。
15. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。
16. 22ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。
17. 28ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

Windows NT 4.0の再セットアップ～シームレスセットアップ～

Windows NT Workstation 4.0 日本語版(Windows NT 4.0)はシームレスセットアップですべてインストールできます。ただし、次の点に注意してください。
「シームレスセットアップ」に関する説明やヒントは29ページを参照してください。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

本装置がサポートしているOSはMicrosoft® Windows NT® Workstation 4.0 日本語版(以降、「Windows NT 4.0」と呼ぶ)です。

Windows 2000については、この前の項を参照してください。その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、151ページの「オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール」を参照して、セットアップ情報ファイルを作成してください。

Windows NT 4.0について

Windows NT Workstation 4.0 日本語版(Windows NT 4.0)は、シームレスセットアップですべてインストールできます。ただし、次の点について注意してください。



重要

- インストールを始める前にオプションの増設やExpressワークステーション本体のセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。
- NECが提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。
- Service Packについて
シームレスセットアップでは「Service Pack 5」以降を適用することができます。Service Pack 5より前のバージョンを適用したい場合は、セットアップ情報ファイルの作成時に「サービスパックの適用」の項目で「しない」を選択してセットアップを行い、Windows NT 4.0の起動後に、21ページを参照して「システムのアップデート」を行ってください。(装置に添付されていないService Packを適用する場合は、お客様でCD-ROMを用意してください。)
- シームレスセットアップを完了した後に22ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。
- 複数枚ネットワークアダプタを装着している場合、アダプタごとのIPアドレスは、OSの起動後に設定してください。

サービスパックについて

Service Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報をお確かめの上、ご使用ください。

Express5800[58番街]：<http://express5800.com/>

MO装置について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイルシステムが正しく変換されません。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

搭載メモリについて

3GBを超えるメモリを搭載したExpress5800にはWindows NT 4.0をインストールできません。

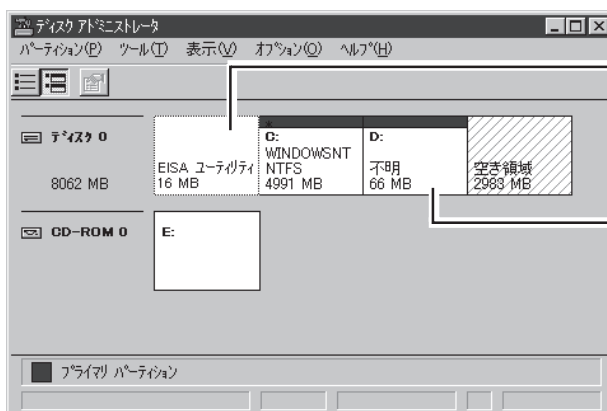
いったんメモリを取り外して3GB以下にしてからインストールしてください。

搭載しているメモリの容量は電源をONにした後、画面に表示されるメモリチェックのカウンタなどで確認してください。

ディスク構成について

■ 「EISAユーティリティ」と表示された領域について

ディスク領域に、「EISAユーティリティ」という領域が表示される場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。



最初のパーティション
構成情報やユーティリティを保存
するための保守用パーティション
です。削除しないでください。

2つ目のパーティション
存在しない場合もあります。存在
する場合は、削除しても問題あり
ません。

■ その他

- OSをインストールするハードディスクを接続しているSCSIコントローラ以外のSCSIコントローラにハードディスクを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。
- ディスクアドミニストレータを使用してミラー化されているパーティションにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、インストール完了後に再度ミラー化してください。



ミラー化あるいはミラーの解除は、ディスクアドミニストレータの[フォールトトレランス]メニューから行えます。

- ルータを越えたプライマリドメインコントローラのバックアップドメインコントローラを作成する場合は、シームレスセットアップではなくマニュアルセットアップでインストールしてください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

$$\begin{aligned} 200\text{MB} + \text{ページングファイルサイズ} + \text{ダンプファイルサイズ} \\ 200\text{MB} &= \text{インストールに必要なサイズ} \\ \text{ページングファイルサイズ(推奨)} &= \text{搭載メモリサイズ} + 12\text{MB} \\ \text{ダンプファイルサイズ(推奨)} &= \text{搭載メモリサイズ} + 12\text{MB} \end{aligned}$$



上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために最低限必要なサイズです。「推奨」値以上の値を設定してください。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できません。

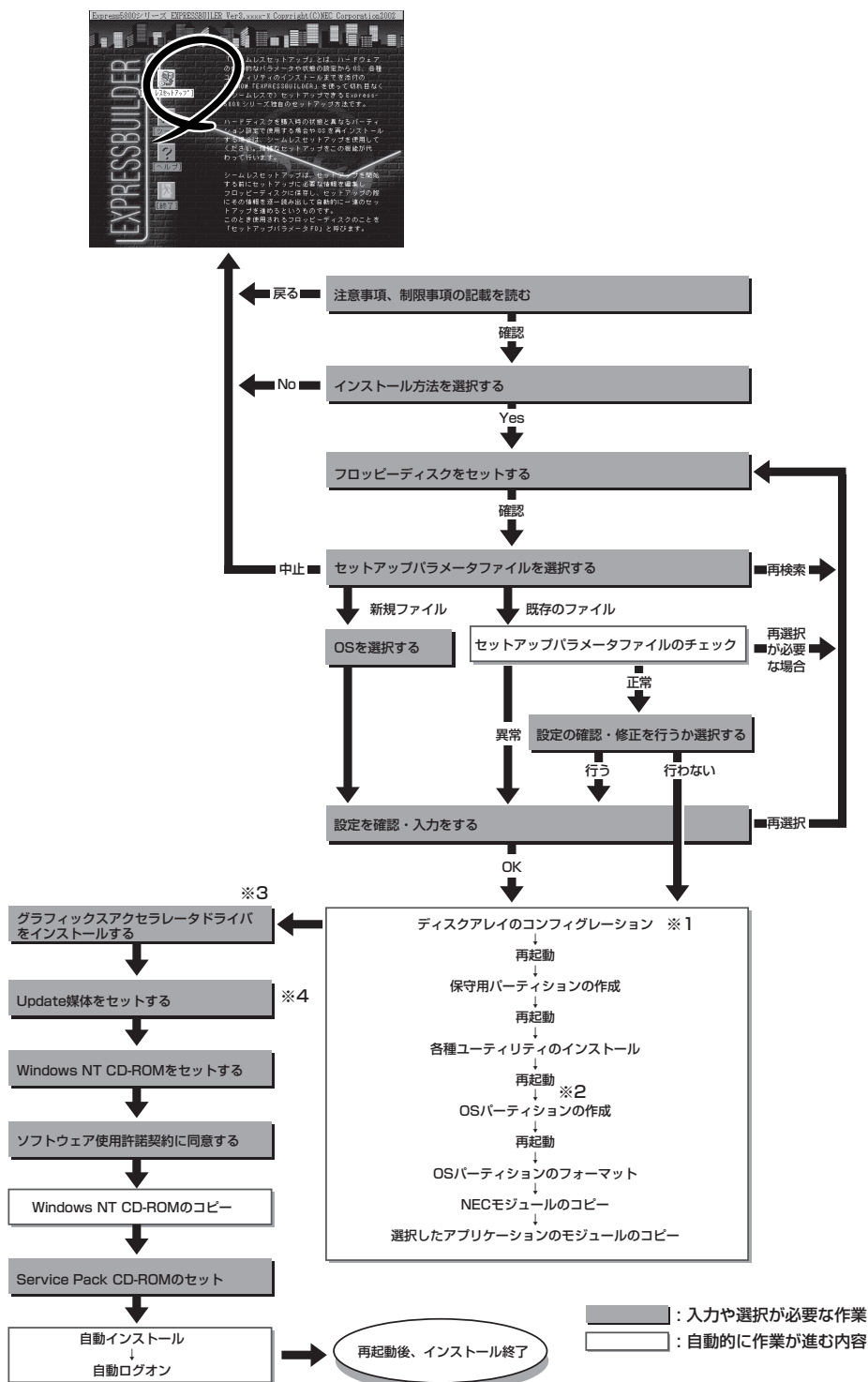
例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

$$200\text{MB} + (512\text{MB} + 12\text{MB}) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) = 1248\text{MB}$$

となります。

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。



セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。

セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。



重要

● Windows NT 4.0をインストールする場合について

- － システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。
- － Windows NT 4.0の起動後にグラフィックスアクセラレータドライバやネットワークアダプタドライバの変更または追加する場合は、15ページを参照してください。
- － Service Packについて

シームレスセットアップでは「Service Pack 5」以降を適用することができます。Service Pack 5より前のバージョンを適用したい場合は、セットアップ情報ファイルの作成時に「サービスパックの適用」の項目で「しない」を選択してセットアップを行い、Windows NT 4.0の起動後に、21ページを参照して「システムのアップデート」を行ってください。(装置に添付されていないService Packを適用する場合は、お客様でCD-ROMを用意してください。)

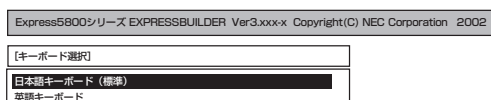
1. 周辺装置、Expressワークステーションの順に電源をONにする。
2. ExpressワークステーションのCD-ROM/RWドライブにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressワークステーションを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. Expressワークステーションで使用するキーボードを選択する。

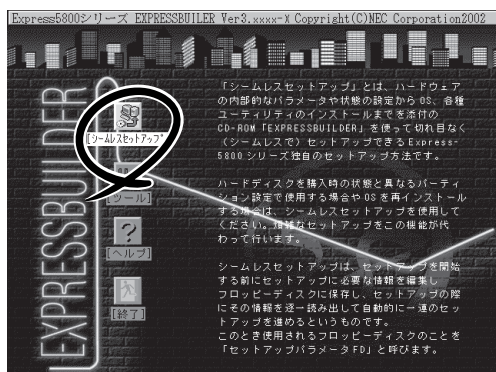
EXPRESSBUILDERを初めて起動すると、キーボードの選択メニューが現れます。このメニューは、1度設定を行うと以降は表示されません。

しばらくすると「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。



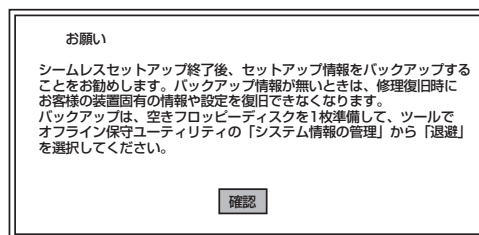
5. 「シームレスセットアップ」をクリックする。

「お願い」が表示されます。



6. 記載内容をよく読んでから[確認]ボタンをクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。



7. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリックする。



「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、空の1.44MBのフォーマット済みフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリックしてください。

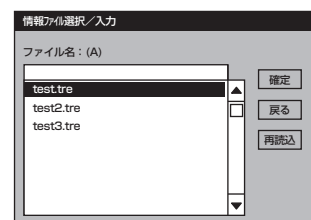
【設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合】

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

- ① インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。



選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような問題がある場合(たとえばExpressPicnic Ver.3以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクを確認してください。



セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

- ② 確認する場合は[確認]ボタンを、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[スキップ]ボタンをクリックする。

[確認]ボタンをクリック→手順8へ進む
[スキップ]ボタンをクリック→手順9へ進む

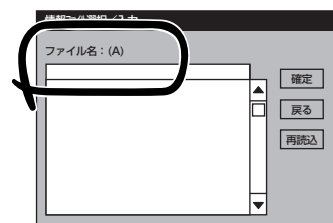
【ブランクディスクをセットした場合】

- ① [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分ををクリックするか、<A>キーを押す。

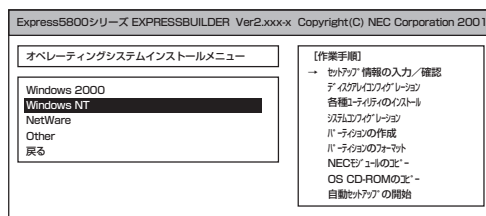
入力ボックスが表示されます。

- ② ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー]が表示されます。



- ③ リストボックスから[WindowsNT]を選択する。

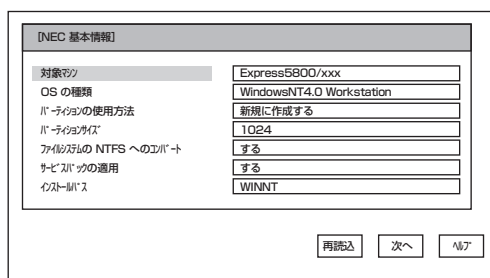


8. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

Expressワークステーション本体にディスクアレイコントローラボードが搭載されている場合は、[アレイディスクの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]ボタンをクリックしてください。



次に、[NEC基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]ボタンをクリックしてください。以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[戻る]ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください(画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります)。設定内容は必要に応じて修正してください。



重要

- OSをインストールするパーティションは必要最小限以上のサイズを確保してください。
- 「パーティションの使用法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション(保守用パーティションを除く)の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
<保守用パーティション>			
保持	削除	保持	保持

- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。
- 4GBを超えるパーティションサイズを指定したとき、「Service Pack 5」以降は必須です。この場合、Windows NTを起動後もアンインストールできません。また、[ユーザ情報]画面の[会社名]は必ず入力してください。



ヒント

- [NEC基本情報]画面にある[再読込]ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込]ボタンは、[NEC基本情報]画面にのみあります。
- [コンピュータの役割]画面にある[終了]ボタンをクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

9. ディスクアレイシステムを構築する。

手順8の[アレイディスクの設定]画面で設定した内容に従ってディスクアレイシステムを構築します。ディスクアレイコントローラボードを検出できなかったときや、ディスクアレイシステムを構築する設定をしなかったときは、次のステップへ進みます。

ディスクアレイシステムは次の手順で自動的に構築されます。

- ① RAIDレベルを自動で設定します。
- ② システムドライブを初期化します。

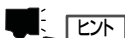


重要

オート設定(RAIDレベルの自動設定)では、SCSIデータ転送パラメータを設定しません。変更する必要があるときは、「ツール」の「ディスクアレイのコンフィグレーション」で設定してください。

10. 保守用パーティションを作成する。

保守用パーティションは次の手順で自動的に作成されます。



ヒント

すでに保守用パーティションが存在する場合、保守用パーティションの作成はスキップします。

- ① 保守用パーティションを作成します。終了後、自動的に再起動します。
- ② 保守用パーティションをフォーマットします。
- ③ 保守用の各種ユーティリティをインストールします。終了後、自動的に再起動します。

<手順7[ブランクディスクをセットした場合]の③で[その他]を選択した場合は以上でシームレスセットアップを終了します。以降は、「オンラインドキュメント」を参照してオペレーティングシステムをインストールしてください。

11. OS領域を作成する。

OS領域は次の手順で自動的に作成されます。

- ① OS用のパーティションを作成します。終了後、自動的に再起動します。



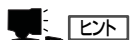
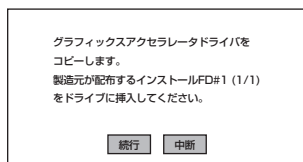
ヒント

[NEC基本情報]画面の「パーティションの使用方法」メニューで「既存パーティションを使用する」を選択していた場合、パーティションの作成は行いません。

- ② OS用パーティションをフォーマットします。

12. グラフィックスアクセラレータのモジュールをコピーする。

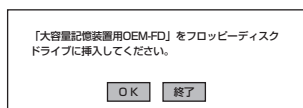
グラフィックスアクセラレータボードに添付されているインストールディスク(フロッピーディスク、あるいはCD-ROM)をフロッピーディスクドライブ、あるいはCD-ROM/RWドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。



- [グラフィックスアクセラレータボード名]に「標準VGA」を選択した場合は、スキップされます。
- オプションのグラフィックスアクセラレータボードを接続していない時はスキップされます。

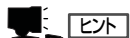
13. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。



14. Update媒体のモジュールをコピーする。

メッセージに従ってインストールするUpdate媒体をフロッピーディスクドライブに挿入してください。



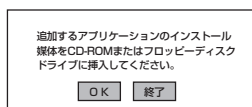
[Update媒体の適用]で「しない」を選択した場合は、スキップされます。



「Update媒体」とは、弊社がWebなどから発行する不具合解消用のフロッピーディスクのことです。適用すべき媒体がありましたら、予防保守のため適用してください。なければ必要ありません。

15. 追加するアプリケーションをインストールする。

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。



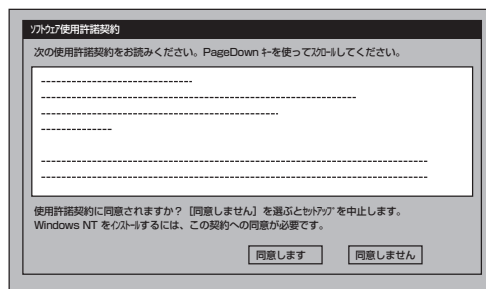
16. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROM/RWドライブから取り出し、WindowsバックアップCD-ROMをCD-ROM/RWドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

17. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]ボタンを、同意しない場合は、[同意しません]ボタンをクリックする。

重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows NT 4.0はインストールされません。



18. メッセージに従ってセットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows バックアップCD-ROMをCD-ROM/RWドライブから取り出す。

19. Service Pack 5以降のインストールを行う指定をしている場合は、メッセージに従って指定したバージョンのService Pack CD-ROMをCD-ROM/RWドライブにセットする。

Windows NT 4.0と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

チェック

Windows NT 4.0 へはローカルのadministratorとしてログオンします。バックアップドメインコントローラの場合は、自動的にログオンしません。

20. 15ページを参照し、デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップを行う。
21. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。
22. 22ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。
23. 28ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

[illegible]